

ジュニアゴルファーのマナー違反と親の態度

——子どもをゴルフスクールに通わせる親に対する調査——

北 徹 朗

1. 研究の背景

「マナー」や「エチケット」をキーワードとした学術研究は少ない。佐々木¹⁾は、マナーを定義づけるにあたり、エチケット、礼儀、作法といった類似した用語との異同を構造的な関連性の観点から論じ定義づけを試みているが、人々の行動様式も変化することから、何が正しいマナーかということも時代とともに変化していくと考えられることを指摘し、マナーやエチケットにおける現代的な定義が難しいことを示唆している。

また、スポーツの場面における、マナーやエチケットに関する先行研究としても、過去に著者らが報告したゴルフ場支配人を対象としたゴルフマナーに関する調査研究²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾以外は見当たらない。

ゴルフは「紳士淑女のスポーツ」「マナーのスポーツ」などと表現され、エチケットやマナーが大変重視されている。実際、JGA（日本ゴルフ協会）のゴルフ規則⁶⁾の第1章の冒頭には「ゴルフの精神」としてエチケットやマナーの大切さが謳われている。さらに、エチケットの重大な違反に当たると考えられる行為をした場合、規則33-7に基づいて競技失格の罰が課されることも明記されている。アマチュアプレーヤーの場合でもエチケットやマナーを理解していない人のゴルフ場への来場自体好ましくないと一般的には考えられている。

北らは、この点に着目しゴルファーにおける重

要な資質とされるマナー遵守の現状はどうかという問題を明らかにすることを試みた。具体的には、『日本のゴルフ場におけるマナー違反の現状』について、全国のゴルフ場に対するアンケート調査を行い報告した²⁾⁴⁾⁵⁾。また、調査当時、外資系企業による日本のゴルフ場運営への参入が相次いでいたことから、国外のゴルフ場の現状はどうかを調査し、『日本のゴルフ場とのマナー違反の国際比較』³⁾により検討した。これらの調査では、以前に比べ日本のゴルファーのエチケット、マナー意識が低下しているとの回答が大半を占めた。さらに、「バブル崩壊以降のゴルファーのマナー」に関する調査では、多くのゴルフ場支配人がバブル崩壊時期以降、ゴルファーのマナーが低下したと感じていることも明らかとなった。

2009年10月2日、デンマークのコペンハーゲンで開かれた第121次 IOC 総会で、2016年のオリンピック開催地がブラジルのリオデジャネイロに決定した。さらに、この大会からゴルフは正式種目とされ、1904年のセントルイス五輪以来112年ぶりにオリンピックの舞台に復帰することも決定された。これ以降、ゴルフの裾野を広げようと、子どもに対する取り組みが活発化している⁷⁾。例えば、日本プロゴルフ協会（PGA）は2009年6月に「PGA ジュニアゴルファー育成プロジェクト」をスタートさせ、日本女子プロゴルフ協会（LPGA）はGBD（ゴルフ・ビジネス・ディビジョン）が主導となって2010年4月に「LPGA 放課後クラブ」を開校させた。その他、日本ゴルフ

ツアー機構 (JGTO) 等をはじめとする10団体で構成される日本ジュニアゴルファー育成協議会 (JGC) では、1999年よりゴルフを通じた子どもたちの健全育成を目指した活動が行われてきた⁷⁾。このように、例示したような取り組みが増え、子どもがゴルフに親しむ機会は従来よりも確実に増加している。

その一方で、『スコア誤魔化し、礼儀を知らないジュニア選手増加の懸念⁸⁾や『親に叱られたくない子供ゴルファー スコアを改ざんする例も⁹⁾』などの見出しで、ジュニアゴルファーやその親のマナー意識における問題が報じられる記事も散見されるようになってきている。

そこで本研究では、ジュニアゴルファーにおけるマナーの実態と親の態度に関する基礎資料を得ることを目的として、調査研究を実施することを試みた。

「エチケット」と「マナー」の言葉の意味の違いについて、『ピーターたちのゴルフマナー』の著者である鈴木康之氏¹⁰⁾は日本語訳の解釈からはエチケットとマナーを分類するのは不可能であることに触れ、その総称として「マナー」を用いている。本稿でも、鈴木の記事に従い「マナー違反」と表記することとした。

2. 調査の方法と内容

都内の某ジュニアゴルフスクールに通う子ども(5歳～16歳)の親21名を対象にアンケート調査を実施した。調査にあたっては、趣旨と目的、アンケートは匿名での回答であることなどを説明し、回答者からの同意を得た。調査期間は、2015年4月1日～5月19日であった。

3. 結果および考察

3-1 親のゴルフ歴

子どもをゴルフスクールに通わせる親のゴルフとの関わりについて、「学生時代から運動部活動やクラブで競技ゴルフをやっている」、「競技では

ないが、子ども時代からゴルフをやっている」、「大人になってからゴルフを開始し今もやっている」、「過去にゴルフはプレーしたことがあるが今はやっていない」、「ゴルフは全くやったことがない」の5件から回答を求めた。その結果、81%が「大人になってからゴルフを開始し今もやっている」と回答した(図1)。「過去にゴルフはプレーしたことがあるが今はやっていない」と「ゴルフは全くやったことがない」への回答はなかった。

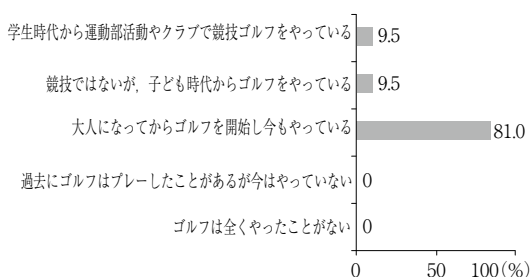


図1 親のゴルフ経験

表1 子どもがゴルフをはじめたきっかけ

子の年齢	子どものゴルフ開始のきっかけ
1	8 1) 知人にゴルフ道具をもらった 2) 大人が練習場でボールを打っている姿を見て興味を持った
2	8 ゴルフ練習場を見て本人がやってみたくてと言いだした
3	9 親子でプレーするため
4	7 やってみたくてテレビを見て言いだしたから
5	10 私の練習に付き合わせたことがきっかけです
6	12 海外駐在先で家の近くにゴルフ場があったため
7	11 家族みんなでゴルフを始めようと思って
8	7 Kids Golfを知って習い事の延長、家族でラウンドできたらと思い
9	7 家族でゴルフをしたかった
10	7 生まれる前からゴルフをさせようと思っていたから
11	8 家族全員でゴルフをしたいため
12	9 本人の希望で
13	9 親の影響、テレビの影響
14	13 一緒にラウンドに行きたいので、ずっとできるスポーツなので
15	11 一緒にラウンドしたいと思い
16	11 自分からやりたいとスクールのチラシを持ってきた (親がゴルフに行くときの留守番が嫌だったのだと思う…)
17	16 父親が競技ゴルフをしていたので
18	12 私が連れて行ったことがきっかけで興味を持った
19	16 私がゴルフをしていたため、一緒にゴルフをしたいため
20	10 Kids Golfを知って習い事の延長、家族でラウンドできたらと思い
21	5 生まれる前からゴルフをさせようと思っていたから

3-2 子どものゴルフ開始のきっかけ

「子どもがゴルフをはじめたきっかけ」について自由記述で回答を求めたところ、その大半が『親からのすすめ』であることがうかがえた（表1）。

3-3 子どもに将来プロゴルファーになって欲しいか

「子どもに将来プロゴルファーになって欲しいと思うか」との質問に、「そう思う」（強くそう思う、そう思うの合計）と回答した親は38.1%であった（図2）。

以後、「強くそう思う」と「そう思う」の回答者を『プロ志望群』（38.1%）、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を『非志望群』（61.9%）と定義する。

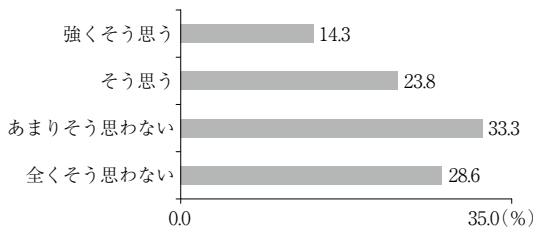


図2 子どもにプロゴルファーになって欲しいか

3-4 ミスショットで子どもを叱るか

「ミスショットをしたり、スコアが悪かったとき、子どもを叱るか」と質問したところ、約半数（52.4%）が「ときどき叱る」と回答した（図3）。

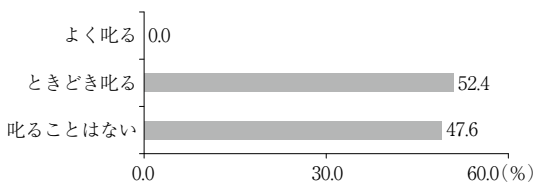


図3 ミスショットで子どもを叱るか

この結果を、「子どもにプロゴルファーになって欲しいと考えている親」（プロ志望群）と、「そう考えない親」（非志望群）で比較したところ、群間で相違が見られた（表2）。

表2 ミスショットで子どもを叱るか [プロ志望別] (%)

	よく叱る	ときどき叱る	叱ることはない
プロ志望群	0	75.0	25.0
非志望群	0	38.5	61.5

今回は対象数が限られていたこともあり、統計学的な有意差が認められるまでには至らなかったものの、親の子どもに対するプロゴルファーの意識の有無が、プレーの内容やスコアの結果に対して叱責の要因になる可能性が高いことが示唆された。

3-5 ルール違反、マナー違反の認識と親の態度

「子どものルール違反やマナー違反を認識した事があるか」を尋ねたところ、57.1%が「ある」と回答した（図4）。

具体的な内容・行動について自由記述で回答を求めたところ、主に以下の内容が挙げられた。

- ・道具を大切にできなかった
- ・ダラダラプレーしていた
- ・ミスショット時道具にあたる（2件）
- ・スロープレー（3件）
- ・あいさつがない
- ・プレイファーストを心がけ、次に何をするのかを考えることの欠如
- ・グリーン上で走る
- ・レインウェアを着たままクラブハウスに入った

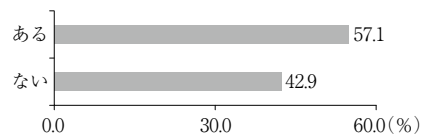


図4 子どものルール違反やマナー違反を認識した事があるか

次に「ルール違反やマナー違反を認識したときや仮にそれが疑われた場合、子どもを叱ると思うか」を尋ねたところ、52.4%が「強く叱ると思う」と回答した（図5）が、これを「プロ志望

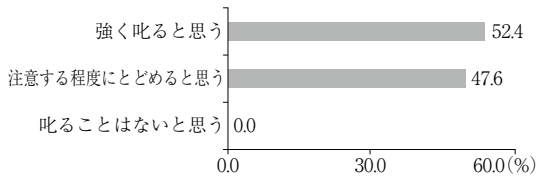


図5 ルール違反やマナー違反で子どもを叱るか

表3 ルール違反やマナー違反で子どもを叱るか [プロ志望別] (%)

	強く叱る	注意する程度	叱ることはない
プロ志望群	25.0	75.0	0.0
非志望群	69.2	30.8	0.0

群」と「非志望群」別に分析したところ、「プロ志望群」においては、『注意する程度にとどめると思う』(75.0%)への回答率が高く、「非志望群」においては『強く叱ると思う』(69.2%)への回答率が高く、群間に相違が見られたが、同様に統計学的有意差が認められるまでには至らなかった(表3)。

次に「自分の子どもに限らず、ジュニアのルール違反やマナー違反についてどう思うか」について回答を求めたところ、大半の親(90.5%)が「いかなる理由があろうとルールやマナーは遵守させるべき」と回答した。「試合に勝つ(良いスコアを出す)ためにはある程度のルール違反やマナー違反は仕方がない」と回答した親は、全て「プロ志望群」であった(図6)。

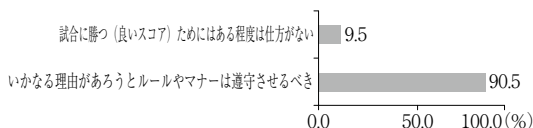


図6 ジュニアのルール違反やマナー違反についてどう思うか

3-6 身につけさせたいのは「技術」か「マナー」か

「ゴルフ技術」と「ゴルフマナー」で子どもに身につけて欲しい優先順位はどちらか」を尋ねたところ、71.4%が「どちらかと言えばゴルフマナー」と回答した(図7)。そして、「子どもは指

導者などにゴルフマナーやルールを教わっているか」との質問について、全員の親が「教わっている」(詳しく教わっている、ある程度教わっている、の合計)と回答した。

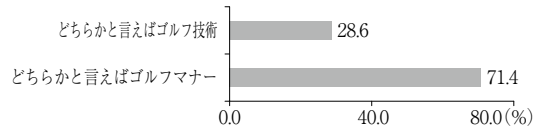


図7 身につけさせたいのは「技術」か「マナー」か

プロ志望別にみると、プロ志望群の親の62.5%が「どちらかと言えばゴルフ技術」と回答したのに対し、非志望群の親においては7.6%しかそう回答せず、「どちらかと言えばゴルフマナー」との回答が殆ど(92.4%)であり、その差は大きかった。

3-7 ジュニアの大会で見られるマナー違反 [プレーヤーのマナー違反]

子どもを大会に参加させたことのある親(17名)に対し、「ジュニアの大会などで、選手のルール違反やマナー違反を見かけることがあるか」について回答を求めた。その結果、58.8%が「ある」(よくある、たまにある、の合計)と回答した(図8)。

具体的な内容について自由記述で回答を求めたところ、主に以下の内容が挙げられた。

- ・空振りをカウントしない
- ・グリーンでマークをせずにボールを動かす
- ・スロープレー
- ・他の選手のプレー中のおしゃべり
- ・スコアカウントミス
- ・道具を大切にしない
- ・バンカーでソールする
- ・ドロップの仕方
- ・ラインを踏む
- ・マークの際キャディがマークして、戻す際はプレーヤーがする
- ・同じグループの子がボールを見つけられず探しているのにどんどん先に行ってしまう

- ・過少申告（3件）
- ・グリーン上でボールのマークをホール近くに
ずらす

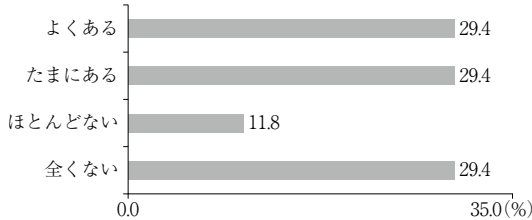


図8 ジュニアの大会などで、選手のルール違反やマナー違反を見かけることがあるか

〔親のマナー違反〕

「ジュニアの大会などにおける、「親」のマナー違反を見かけることがあるか」を尋ねたところ、64.7%が「ある」（よくある、たまにある、の合計）と回答した（図9）。

具体的な内容について自由記述で回答を求めたところ、主に以下の内容が挙げられた。

- ・過剰なアドバイス
- ・声掛けが過剰な親
- ・服装が不適切（3件）
- ・プレーが始まっているのにしゃべっている
- ・プレー中の会話
- ・子どものスコアが良くなるためなら何でもする。（ギャラリーとして入っていて、自分の子どものボールを打ちやすい位置にずらす、など）
- ・子どもへの指示内容が不適切

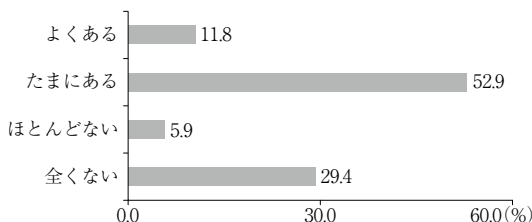


図9 ジュニアの大会などにおける、「親」のマナー違反を見かけることがあるか

3. ま と め

ジュニアゴルファーにおけるマナーの実態と親の態度に関する基礎資料を得ることを目的として、ジュニアゴルフスクールに子どもを通わせている親（21名）に対するアンケート調査を実施した。その結果、主に以下のことが明らかにされた。

【結果①】

子どもをプロゴルファーにさせたい親（プロ志望群）は「ミスショットやスコアが悪いと叱る」が、「ルール違反やマナー違反の場合は注意する程度にとどめる」傾向が強かった。

また、「試合に勝つ（良いスコアを出す）ためにはルール違反やマナー違反はある程度は仕方がない」と考えている保護者は全てプロ志望群であった。

【結果②】

子どもをプロゴルファーにさせようと考えていない親（非志望群）のほぼ全員が、ゴルフを通じて「ゴルフマナー」（ゴルフの精神など）を身につけて欲しいと回答したが、プロ志望群保護者は「マナーよりも技術」を身につけさせたいと回答した。

以上のように、本調査において、「ミスショットを叱るのはプロ志望群」に多く、「マナー違反を叱るのは非志望群」に多い傾向が認められた。前述した、ジュニア大会で見られる親に叱られるのを回避するためにスコアを誤魔化すなどの一部の子どもの行為の報告は、子どもの問題と言うよりもむしろ親の問題であることが、本調査結果においても示唆され、子どもにゴルフをさせる親の姿勢が問われていると考えられた。

今回はジュニアゴルファーの親に対してアンケート調査を実施したが、今後は指導者やゴルフ場関係者、大会関係者などへの調査も実施し、ジュニアゴルファーとそれを取り巻く環境の現状と課題を抽出し、より良いゴルフ環境のための提言を示していきたい。今回の調査では母数が少な

かったため、分析を試みても統計学的な有意差が認められるまでに至らなかったが、一定量の母集団を集めることができれば、今回の一資料は今後の研究に大いに役立つ内容になることが期待される。今回は一資料を提示したに過ぎないが、今後も調査を継続し母数を増やして行くことにより精度の高いデータを示すことが課題である。

参考文献・参考資料

- 1) 佐々木真由美(2012)現代青年のマナー観について：礼儀作法の形成過程，北海学園大学大学院経営学研究科研究論集10, pp. 25-37
- 2) 北徹朗・小山慎一・高橋宗良・吉原紳(2013)日本のゴルフ場におけるマナー違反の現状—関東・近畿のゴルフ場支配人に対する調査—，体育研究（中央大学）第47号，pp. 65-69
- 3) 北徹朗・吉原紳・山本唯博・堀江繁・全芝賢(2010)ゴルフ場で見られるマナー違反の国際調査，体育研究（神奈川体育学会）第43号，pp. 18-20
- 4) 北徹朗・堀江繁・吉原紳(2008)日本のゴルフ場で見られるマナー違反の現状，ゴルフの科学，Vol. 21 No.1, pp. 1-5
- 5) 北徹朗・吉原紳(2008)ゴルフをもっと理解しよう—マナーを守って安全なゴルフを—，臨床スポーツ医学 Vol. 25 No. 3, pp. 283-286
- 6) 日本ゴルフ協会(2015)2015年版ゴルフ規則（付）アマチュア資格規則，p. 26
- 7) 北徹朗・吉原紳・橋口剛夫・山本唯博・赤羽根直樹・堀江繁(2012)子どものスポーツ環境についての研究—関東・近畿のゴルフ場を対象として—，体育研究（神奈川体育学会）第45号，pp. 47-50
- 8) 産経ニュース(Web版，2014年5月10日配信記事)脚光浴びる勝みなみの陰で…スコア誤魔化し，礼儀を知らないジュニア選手増加の懸念 (<http://www.sankei.com/sports/news/140510/spo1405100079-n1.html>) 2015年9月23日確認
- 9) excite ニュース(NEWSポストセブン Web版，2014年8月23日配信記事) 親に叱られたくない子供ゴルファー スコアを改ざんする例も (http://www.excite.co.jp/News/sports_g/20140823/Postseven_271904.html) 2015年9月23日確認
- 10) 鈴木康之(1999)PETER'S GOLF MANNERS—ピーターたちのゴルフマナー—，ゴルフダイジェスト社，pp. 132-137